

# 我國最初の保母豊田英雄女史をお訪ねして

倉 橋 惣 三

一  
豊田英雄女史の名は、我國最初の保母として、

日本幼稚園史の第一頁に特筆されてゐるところである。本年八月、豫ねての宿望を達して、水戸市田見小路の寓に女史をお訪ねすることの出来たのは、至上の欣快とせざるを得ない。特に今年正に八十四歳の高齡であるに拘はらず、尙ほ鏗鏘として、現に愛國婦人會支部副會長の活動をつゞけられてゐる御健康は、諸君と共に、先づ第一の喜びとするところである。お若い方でないから、容貌のお噂をしてもお許し頂けると思ふが、堂々たる體格、端正なる風姿、實に古の武家女丈夫の典型

たるを思はしめる。殊に水戸の偉傑藤田東湖を叔父とせらるゝところから、其の風貌のうちに、肖像で知る此の偉傑の豪邁なる面影を偲ばしむるものがあつた。お茶の水で教へを受けた人々から、まことに美しい方であつたといふ話を聞いてゐたが、今日も、僅に右眼の視力が衰へたといつてゐられるだけで、とても、お年齢とは思へないお氣力である。

## 二

女史は、弘化二年乙未十月二十一日、水戸藩士桑原治兵衛信毅氏の五女として、水戸に生れた。母ゆき氏は、藤田東湖の妹に當る。豊田氏に嫁し

夫君が維新の志士として、刺客の難に遇ふや、後、家塾を開いて女子の爲に讀書、手習を教授し、明治六年學制の發布と共に、發櫻女學校の創設に參し、その教師となつた。實に、女子教育の大先驅者といふべきである。明治八年、當時の東京女子師範學校（現東京女子高等師範學校）攝理中村正直氏の見るところとなり同校讀書教員（當時は各學科名を附してゐた）となつた。翌明治九年、附屬幼稚園の創設と共に、保姆を命ぜられ、こゝに始めて我國幼稚園教育の第一日を開始されたのである。當時中村攝理自ら幼稚園に深き興味を有し、關信三氏（我國最初の保育法の著述者）本校に於て英語を教授する傍、幼稚園の事務を見、又保育法の研究をなし、續いては小西信八氏（我國幼稚園教育の發達に大貢獻ある人、前東京聾啞學校長）深甚の熱心を以て、幼稚園のことに當られ、創設精神の極めて濃渾たるものはあつたけれども、保

育の實際に於ては、一切がすべて新らしい試みてあり、假令、松野クラ、女史によつてフレール保育法の熱心なる指導があつたにしても、保姆としての日々の實際は、今日では想像されない程心勞の多い仕事であつたに相違ない。恩物、手技の材料は、外國の型によつて模することが出来得たとしても、最も材料に苦むものは唱歌であつた。そこで、保姆諸君の手によつて一つ／＼新作されなければならなかつたが、假令ば、彼の「風車」「家鳩」の如きも豊田女史の作になつたものである。

### 三

明治十二年、時の鹿兒島縣令岩村通敏氏、教育のことに頗る熱心であつて、眞の教育の徹底は、學齡前から行はれなければならぬといふ趣旨に基き、幼稚園を設立することになり、豊田女史は官令により出張の形式を以て鹿兒島に赴き、その幼稚園を創設したのであつた。即ち女史の幼稚園教育

に對する貢獻は、お茶の水の發祥地に於てのみならず、遠く九州にまで及んだのである。鹿兒島幼稚園の創設を完了して再び東京に歸任後は専ら附屬高等女學校の授業を擔任する事となり、女史自身と幼稚園との直接の關係はなくなつたが、それ迄に女史の教へを受けた若き人々こそが當時から後年へかけて、我國の幼稚園の發達の爲に大切な基礎を築き上げた大功勞者となつたのである。大阪幼稚園の先驅者氏原銀女史の如き一人である。

女史は、其後藩公が伊太利公使たりし際、明治二十年より同二十四年まで、ローマに滯留したことがあり、又、水戸の縣立高等女學校に教鞭を執られたこともあつたが、今日は其光輝ある晩年を以て専ら社會的に活動してゐられるのである。

#### 四

其日は、茨城縣女子師範學校の、大瀧、大河内君の東道によつて、彰考館に大日本史稿を看、偕樂園

の雨景を賞したる後、兩君と共に女史をお訪ねしたのであつたが、最懇切に迎へられ、茶菓の饗をうけつゝ長時間に亘つて、幼稚園創業史を、其人の口から伺ふことの出來たのは、幼稚園研究者たる余にとつて、一生忘れることの出來ない紀念の午後であつた。座敷に「依雲亭」と題する古色幽雅なる篇額があつた。筆勢頗る雄健、「甲子晩夏 藤信」とある。女史にお尋ねしたら、こともなげに小四郎ですといはれた。即ち藤田小四郎である。余は更めて、東湖の姪の前に居ることを思つたのである。

翌日、女史はわざわざ縣立女子師範學校に余を答訪せられたが、其日は丁度余の講習の最後の日であつたので、閉會に際し、野島校長より特に女史を講習會諸君に紹介し、醇厚なる敬意を表せられたことは、三日間の講習よりも、どの位意義深い生きた感銘を、若き教育者諸君に與へたことかと思ふ。